

常用漢字考Ⅱ

矢澤秀昭

はじめに

中国語は一音節が一語（形態素）を成し、その一音節を文字とした漢字は表語文字である。世界で広く普遍的に用いられているアラビア数字などは、一つ一つ文字の「意味」は明確であるが「発音」が言語によって異なり、意味と発音の結びつきが希薄であるのでこれは表意文字である。

中国語の音節構造は伝統的に「声」と「韻」によって構成されている。声は声母とも呼ばれ子音を指す。韻は韻母と声調が含まれる。韻母と母音を等号で結ぶことはできない。韻尾に鼻音を含む場合もあるからである。方言や中古漢語においては、-m、-p、-t、-kなどの子音を有することもある。以下に中国語の音節構造を例を挙げて示す。

漢字	声母	韻	(韻頭	韻腹	韻尾	声調)
俄 (餓)	○	è	(e		4)
馬 (馬)	m	ǎ	(a		3)
兽 (獸)	sh	u	(o	u	4)
桥 (橋)	q	iáo	(i	a	o	2)
悬 (懸)	x	uán	(ü ¹⁾	a	n	2)
钢 (鋼)	g	āng	(a	ng	1)

(表音は現代ピンイン表記。声調は第一声、第二声、第三声、第四声をそれぞれ1、2、3、4の数字で表した。声母の○は零声母)

中国語は声母、韻母、声調の三要素によって一音節を構成し、一語を形

成している（声母が無い零声母の音節、声調を持たない「吗」などの助詞、また「朋友」の友のように、熟語のなかにおいて二音節目以降にある場合は声調を持たないこともある）。

日本語の音節構造は子音と母音の組み合わせであり声調は無く、一音節で一語を構成することを原則としない。「木（k i）」、「手（t e）」、「蚊（k a）」などは日本語の語彙全体から見れば少数である。多くは二つ以上の音節を組み合わせで一語を構成している。ゆえに、一音節に声調のような高低抑揚のリズムを必要としない（「橋」と「箸」のように語彙によってアクセントが異なる場合があるが、これは語の識別を目的としており、音節毎に一タリズムを付けることはない）。

中国語	日本語（音読＝中国語漢字）
我 wō	わたし wa ta shi (ga)
这（這）zhè	これ ko re (sha)
吃（喫）chī	食べる ta be ru (kitsu)
看 kàn	見る mi ru (kan)
贵 guì（価格）	高い ta ka i (ki)

日本語と中国語の音節に当然差異はあるものの、その構造が近似している（子音+母音、声母+韻）と認識しても差し支えはない。

漢字は日本語に取り入れられ、長きにわたり使用されてきた。漢字音はどのように日本人に読まれ、現代に至ったか。常用漢字²⁾を中心に日本語における漢字音について論じてみたい。

呉音 漢音 唐音

漢字音には、呉音、漢音、唐音（宋音）など、主に日本にはいつてきた

時代や地域によって区別されている。漢音は、唐代の都長安の発音を模したものである。呉音は漢音が使用される以前に主に南方より伝わってきたものである。唐音は宋、元、明、清代の発音を模したものである。他に、呉音、漢音、唐音のいずれでもなく通用している慣用音（「消耗 ショウコウ」の耗をモウと読む類）もある³⁾。

例字	呉音	漢音	唐音
外	ゲ（外道）	ガイ（外国）	ウイ（外郎）
行	ギョウ（修行）	コウ（行進）	アン（行灯）
明	ミョウ（明王）	メイ（明快）	ミン（明代）

漢字音は仏教と深く関わりがある。「和尚」を天台宗では「カショウ」、真言宗などでは「ワジョウ」、禅宗では「オショウ」と読む。「和」の呉音は「ワ」、漢音は「カ」、唐音は「オ」である。仏教用語は漢音が定着する以前の呉音で読まれることが多く、漢音は七世紀以降儒学を学ぶものを中心に使用された。江戸期以降は漢字を仮名で書き表す所謂「字音仮名遣」や、西欧の言葉を翻訳するために作られた和製漢語に漢音が使用され広く普及した。唐音は禅宗の用語以外では、行火（アンカ）、椅子（イス）、石灰（シツクイ、現在ではセツカイと区別するため「漆喰」と表記する）、扇子（センス）、布団（フトン）、暖簾（ノレン）、湯湯婆（ゆたんぽ）など、中国から入ってきた物品に使用されていることが多い。

常用漢字の漢字音

日本の漢字音は、中国語の中古音（およそ隋～唐）を由来とすることが多い。中古漢語（ここで言う漢語とは中国語のことであり、日本語の語彙における和語、漢語、外来語の漢語ではない）の伝統的声母、韻母と日本

漢字音との対照を以下に挙げる（例字は太字、各声母、韻母の中国語音韻学上の伝統的代表字。代表字が常用漢字ではない場合はその声母、韻母に属する常用漢字を括弧内に記した）。

中古漢語声母日本漢字音対照表⁴⁾

発音部位	清濁			
	全清	次清	全濁	次濁
重唇音	幫 (邦) [p]	滂 (判) [pʰ]	並 [b]	明 [m]
呉音	ハ行	ハ行	バ行	マ行
漢音	ハ行	ハ行	ハ行	マ行
輕唇音	非 [f]	敷 [fʰ]	奉 [v]	微 [m]
呉音	ハ行	ハ行	バ行	マ行
漢音	ハ行	ハ行	ハ行	バ行
舌頭音	端 [t]	透 [tʰ]	定 [d]	泥 [n]
呉音	タ行	タ行	ダ行	ナ行
漢音	タ行	タ行	タ行	ダ行
舌面音	知 [ʧ]	欄 [ʧʰ]	澄 [d]	娘 [ŋ]
呉音	タ行	タ行	ダ行	ナ行
漢音	タ行	タ行	タ行	ダ行
齒頭音	精 [ts]	清 [tsʰ]	從 [dz]	
呉音	サ行	サ行	ザ行	
漢音	サ行	サ行	サ行	
	心 [s]		邪 [z]	
呉音	サ行		ザ行	
漢音	サ行		サ行	
正齒音	照 [tʂ]	穿 (川) [tʂʰ]	床 [dʂ]	
呉音	サ行	サ行	ザ行	

	漢音	サ行	サ行	サ行	
		審〔ㄝ〕		禪〔ㄗ〕	
	呉音	サ行		ザ行	
	漢音	サ行		サ行	
半舌音					来〔l〕
	呉音				ラ行
	漢音				ラ行
半齒音					日〔n〕
	呉音				ナ行
	漢音				ザ行
牙音		見〔k〕	溪〔k'〕	群〔g〕	疑〔ŋ〕
	呉音	カ行	カ行	ガ行	ガ行
	漢音	カ行	カ行	カ行	ガ行
喉音		曉〔x〕		匣(下)〔ɣ〕	
	呉音	カ行		ガ行	
	漢音	カ行		カ行	
		影〔ŋ〕			喻〔ŋ〕
	呉音	アヤワ行			ヤワ行
	漢音	アヤワ行			ヤワ行

韻母⁵⁾

陽声韻 (韻尾に-n、-ng、-mを有するもの)

- ① 東〔oŋ ioŋ〕 冬〔uŋ〕 鍾(鐘)〔iuŋ〕
 呉音 ウ段長音 オ段長音 拗音ユ 拗音ユ長音 ウ段
 漢音 オ段長音 オ段長音 拗音ヨ長音
- ② 江〔ɔŋ〕
 呉音 オ段長音

漢音 ㄘ段長音

③ 真 [iɛ̃n iwɛ̃n] 臻 (隱) [iɛ̃n] 文 [iuən] 欣 [iən]
吳音 ㄨ段撥音 ㄨ段撥音 ㄘ段撥音 ㄘ段撥音
漢音 ㄨ段撥音 ㄨ段撥音 ㄨ段撥音 ㄨ段撥音

④ 元 [iɛn iwɛn] 魂 [uən] 痕 [ən]
吳音 ㄘ段撥音 ㄘ段撥音 ㄘ段撥音
漢音 ㄨ段撥音 ㄘ段撥音 ㄘ段撥音

⑤ 寒 [an] 桓 (完) [uan] 側 (班) [an] 山 [æn wæn]
吳音 ㄆ段撥音 ㄆ段撥音 ㄨ段撥音 ㄨ段撥音
漢音 ㄆ段撥音 ㄆ段撥音 ㄆ段撥音 ㄆ段撥音

⑥ 先 [ien iwɛn] 仙 [iɛn iwɛn]
吳音 ㄨ段撥音 ㄨ段撥音
漢音 ㄨ段撥音 ㄨ段撥音

⑦ 陽 [iaŋ iwɑŋ] 唐 [aŋ wɑŋ]
吳音 拗音 ≡ 長音 ㄘ段長音
漢音 拗音 ≡ 長音 ㄘ段長音

⑧ 庚 (更) [ɛŋ iɛŋ wɛŋ iwɛŋ] 耕 [æŋ wæŋ]
吳音 拗音 ≡ 長音 拗音 ≡ 長音
漢音 ㄘ段長音 ㄘ段長音

⑨ 清 [iɛŋ iwɛŋ] 青 [iɛŋ iwɛŋ]
吳音 拗音 ≡ 長音 拗音 ≡ 長音
漢音 ㄨ段イ ㄨ段イ

⑩ 蒸 [iəŋ] 登 [əŋ wəŋ]
吳音 拗音 ≡ 長音 ㄘ段長音
漢音 拗音 ≡ 長音 ㄘ段長音

⑪ 侵 [iəm]
吳音 ㄨ段撥音

漢音 イ段撥音

⑫ 覃(南) [ɒm] 談 [am] 塩 [iem] 添 [iem]

呉音 オ段撥音 ア段撥音 エ段撥音 エ段撥音

漢音 ア段撥音 ア段撥音 エ段撥音 エ段撥音

⑬ 咸(杉) [ɛm] 銜(監) [am] 嚴 [iem] 凡 [iwɛm]

呉音 エ段撥音 エ段撥音 オ段撥音 オ段撥音

漢音 ア段撥音 ア段撥音 エ段撥音 ア段撥音

陰声韻 (母音で終わるもの)

⑭ 支 [ie iwe] 脂 [iei iwei] 之(時) [iə] 微 [iəi iwəi]

呉音 イ段 イ段 イ段 イ段

漢音 イ段 イ段 イ段 イ段

⑮ 魚 [io] 虞(娛) [iwo] 模 [uo]

呉音 オ段 ウ段 オ段

漢音 拗音ヨ ウ段 オ段

⑯ 齋 [iei iwei] 佳 [ai wai] 皆 [ei wɛi]

呉音 ア段イ イ段 エ段 エ段

漢音 エ段イ イ段 ア段イ ア段イ

⑰ 灰 [uɔi] 咍(台) [ɔi]

呉音 エ段 ア段イ

漢音 ア段イ ア段イ

⑱ 祭 [iei iwei] 泰 [ai uai]

呉音 ア段イ ア段イ

漢音 エ段イ ア段イ

⑲ 夬(快) [wæi æi] 廢 [iwɛi iɛi]

呉音 エ段 オ段

漢音 ア段イ ア段イ

⑳ 蕭(料) [ieu] 宵 [ieu] 肴(包) [au] 豪 [au]

呉音	拗音ヨ長音	拗音ヨ長音	拗音ヨ長音	オ段長音
漢音	拗音ヨ長音	拗音ヨ長音	オ段長音	オ段長音

⑲ 歌 [a] 戈 (過) [ua ia iwa]

呉音	ア段	ア段
漢音	ア段	ア段

⑳ 麻 [a wa ia]

呉音	エ段	拗音ヤ	ア段
漢音	ア段	拗音ヤ	

㉑ 尤 (郵) [iōu] 侯 (歐) [ōu] 幽 [iōu]

呉音	ウ段	ウ段	拗音ユ長音
漢音	拗音ユ長音	オ段長音	拗音ユ長音

入声韻 (入声は韻尾に-p、-t、-kをもつ声調であるが、日本漢字音に多大な影響を与えたのでここで取り上げる。入声は声調であるが、促音のように「つまる音」である。-p韻尾入声は口を閉じて発音を終える。「キップ (切符)」と発音したときの要領。-t韻尾入声は舌先を上顎に押しつけて発音を終える。「カッテ (勝手)」と発音したときの要領。-k韻尾入声は喉頭を閉じて発音を終える。「コッカク (骨格)」と発音したときの要領。現代北京語ではこの声調は消失している)

㉒ 屋 [ok iok] 沃 [uk] 燭 (欲) [iuk]

呉音	オ段ク	オ段ク	オ段ク
漢音	オ段ク	オ段ク	拗音ヨク

㉓ 覺 [ɔk]

呉音	ア段ク
漢音	ア段ク

㉔ 質 [iět] 術 [iwět] 櫛 [iět]⁶⁾ 物 [iuət]

呉音	イ段チ	拗音ユツ	イ段チ	ウ段 オ段チ
漢音	イ段ツ	拗音ユツ	イ段ツ	ウ段ツ

⑳	迄 [iæt] ⁷⁾	月 [iæt iwæt]	没 [uæt]	
呉音	オ段チ	オ段チ	オ段チ	
漢音	イ段ツ	エ段ツ	オ段ツ	
㉑	曷 (渴) [at]	末 [uat]	轄 [at wat]	黠 (札) [æ t wæt]
呉音	ア段チ	ア段チツ	エ段チ	エ段チ
漢音	ア段ツ	ア段ツ	ア段ツ	ア段ツ
㉒	屑 (切) [iæt iwet]		薛 (列) [iæt iwet]	
呉音	エ段チ		エ段チ	
漢音	エ段ツ		エ段ツ	
㉓	藥 [iak iwak]		鐸 (託) [ak wak]	
呉音	拗音ヤク		ア段ク	
漢音	拗音ヤク		ア段ク	
㉔	陌 (白) [ɛk iɛk wɛk]		麦 [æ k wæk]	
呉音	拗音ヤク		拗音ヤク	
漢音	拗音ヤク		ア段ク	
㉕	昔 [iɛk iwɛk]		錫 (析) [iɛk iwɛk]	
呉音	拗音ヤク		拗音ヤク	
漢音	エ段キ		エ段キ	
㉖	職 [iæk iwæk]		德 [æk wæk]	
呉音	イ段キ		オ段ク	
漢音	拗音ヨク		オ段ク	
㉗	緝 (習) [iəp]			
呉音	拗音ユ長音			
漢音	拗音ユ長音			
㉘	合 [ɔp]	盍 (蓋) [ap] ⁸⁾	葉 [iɛp]	帖 [iɛp]
呉音	オ段長音	オ段長音	拗音ヨ長音	拗音ヨ長音
漢音	オ段長音	オ段長音	拗音ヨ長音	拗音ヨ長音

③⑥	洽(峽) [ɛp]	狎(甲) [ap]	業 [iɛp]	乏 [iwɛp]
呉音	拗音ヨ長音	拗音ヨ長音	オ段長音	オ段長音
漢音	オ段長音	オ段長音	拗音ヨ長音	オ段長音

現在日本語の子音は、五十音表に従えば9種の清音、4種の濁音、1種の半濁音の14種になる。しかし、例えば「シ」はヘボン式ローマ字では「sh i」と表記し、他のサ行音とは区別する。このように詳細に見れば日本語の子音は14種にとどまらない。シ [ɕ] の他に、タ行「チ」[tʃ] 「ツ」[ts]、ナ行「ニ」[ɲ]、ハ行「ヒ」[ç] 「フ」[ɸ]、ザ行（ダ行「ヂ」）「ジ」[dʒ]、ダ行「ヅ」[dz] などがあり、日本語の子音は実際には20を超える⁹⁾。

或る地域の言葉を他の地域の言葉を以て発音を完全に表記することはできない。例えば、英語の「l」と「r」の違いを日本語の仮名文字では表現できない。すべてラ行で表記する。同様に「th」もサ行やダ行で表記するしかない。言語の異なる地域の言葉を表記するには、その地域の言葉で最も近い「音」に置き換えるしかない。中国語が日本に入ってきて、その発音を日本語に書き留めるにも「l」、「r」と同様のことが行われた。このような点から見れば前記の中古漢語声母日本漢字音対照表は、唇音を除き妥当な対応と考えられる。

中古漢語重唇音が、明声母（マ行音に対応）と並声母呉音（バ行音に対応）を除き現代日本語ではハ行音となっている。ハ行音（特にハヘホ）と重唇音では発音部位が大きく異なる。ハ行音は室町期において[h]音は無く[f]音であり、さらにそれ以前ではハ行音は[pa]、[pi] [pu]、[pe]、[po]であったと考えられている¹⁰⁾。パ行音が中古漢語重唇音及び軽唇音に対応するのは至極当然である。喉音曉声母、匣声母が現代ハ行音に近いが、それに対応する[h]音が当時の日本にはなかったので発音部位が同じであるカ行音を対応させている。

日本語の母音は [a]、[i]、[u]、[e]、[o] の5種類である¹¹⁾。前述の如く中国語の韻母は単音節であっても韻頭、韻腹、韻尾からなり日本語の母音とその構造が異なる。中国語で単母音（韻腹のみの韻母）の音節であれば日本語での表記もさほど問題はない（歌、麻等）。複合母音（鼻音韻尾-n、-ng、-mを伴わず、韻頭+韻腹、韻腹+韻尾、韻頭+韻腹+韻尾の韻母）の韻母を日本語で表記するには工夫が必要である。中古漢語声母日本漢字音対照表の韻母表を①群から順に見てみる。

①中古漢語韻尾が [ŋ] である。日本語は [ŋ] 音が、撥音「ン [n]」のように五十音表にはっきり現れることはなく、語尾に [ŋ] を置かない。語尾 [ŋ] は長音を以て代替している。中古漢語に韻頭 [i] がある場合は「拗音ヨ乃至ユ長音」となっている。長音ではなく拗音ユやウ段の母音と対応する例もあるが、それはあまり通用していない（鍾の呉音はシュであるが、シュと読む例がほとんど見当たらない）。

東グループは呉音が「ウ段長音」、漢音が「オ段長音」である。冬グループは呉音、漢音とも「オ段長音」である。鍾グループは呉音が「拗音ユ」、「拗音ユ長音」、「ウ段」である。漢音は「拗音ヨ長音」である。

②中古漢語韻尾が [ŋ] である。漢音、呉音とも「オ段長音」となっているが、旧仮名遣いでは漢音は「ア段長音」である。

③中古漢語韻尾が [n] である。真、臻グループは呉音、漢音とも「イ段撥音」である。文グループは呉音が「オ段撥音」、漢音が「ウ段撥音」である。欣グループは呉音が「オ段撥音」、漢音が「イ段撥音」である。

④中古漢語韻尾が [n] である。呉音は元、魂、痕グループいずれも「オ段撥音」である。漢音は元グループの韻頭 [i] が複合母音の無い日本語においては韻腹と併せて「エ段撥音」となっている。現代北京語でもこのグループに属する分、番、煩等（いずれも声母が唇音）は韻頭 [i] が消失している。魂、痕グループは「オ段撥音」である。

⑤中古漢語韻尾が〔n〕である。寒、桓グループは呉音、漢音とも「ア段撥音」であるが、桓グループは旧仮名遣いでは呉音、漢音とも「ウ段ワン」である。

⑥中古漢語韻尾が〔n〕であり。先、仙グループとも呉音、漢音いずれも元グループ同様に日本語においては中古漢語の韻頭〔i〕と韻腹を併せて「エ段撥音」となっている。

⑦中古漢語韻尾が〔ŋ〕である。陽グループは呉音、漢音とも「拗音ヨ長音」であるが、旧仮名遣いではどちらも「拗音ヤ長音」である。唐グループは呉音、漢音とも「オ段長音」であるが、旧仮名遣いではどちらも「ア段長音」である。

⑧中古漢語韻尾が〔ŋ〕である。庚、耕グループとも呉音が「拗音ヨ長音」、漢音「オ段長音」であるが、旧仮名遣いでは、呉音は「拗音ヤ長音」であり、漢音は「ア段長音」である。

⑨中古漢語韻尾が〔ŋ〕である。清、青グループとも呉音が「拗音ヨ長音」、漢音が「エ段イ」であるが、旧仮名遣いでは呉音は「拗音ヤ長音」である。

⑩中古漢語韻尾が〔ŋ〕である。蒸グループは呉音、漢音とも「拗音ヨ長音」である。登グループは呉音、漢音とも「オ段長音」である。

⑪中古漢語韻尾が〔m〕である。〔m〕韻尾は日本語では撥音が対応している。呉音、漢音とも「イ段撥音」であるが、旧仮名遣いでは呉音、漢音とも「イ段ム」である。

⑫中古漢語韻尾が〔m〕である。覃グループは呉音が「オ段撥音」、漢音が「ア段撥音」であるが、旧仮名遣いでは呉音が「エ段ム」、漢音が「ア段ム」である。談グループは呉音、漢音とも「ア段撥音」であるが、旧仮名遣いではどちらも「ア段ム」である。塩、添グループは呉音、漢音とも「エ段撥音」であるが、旧仮名遣いではどちらも「エ段ム」である。

⑬中古漢語韻尾が〔m〕である。咸、銜グループは呉音が「エ段撥音」、漢音が「ア段撥音」であるが、旧仮名遣いでは、漢音が「ア段ム」、嚴グループは呉音が「オ段撥音」、漢音が「エ段撥音」であるが、旧仮名遣いでは呉音が「オ段ム」、漢音が「エ段ム」である。凡グループは呉音が「オ段撥音」、漢音が「ア段撥音」であるが、旧仮名遣いでは呉音が「オ段ム」、漢音が「ア段ム」である。

⑭いずれのグループも呉音、漢音とも短母音「イ段」である。

⑮魚グループは呉音が「オ段」、漢音が「拗音ヨ」である。虞グループは呉音、漢音とも「ウ段」である。模グループは呉音、漢音とも「オ段」である。

⑯齋グループは呉音が「ア段イ」、「イ段」、漢音が「エ段イ」、「イ段」である。佳、皆グループとも呉音が「エ段」、漢音が「ア段イ」である。佳を「カ」と読むのは慣用音。中古漢語の同音字に「街」がある。

⑰灰グループは、呉音では「エ段」である。「回」もこのグループに属し呉音は「エ」である。漢音は「ア段イ」であるが、旧仮名遣いでは「ウ段ワイ」である。咍グループは呉音、漢音とも「ア段イ」である。

⑱祭グループは呉音が「ア段イ」、漢音が「エ段イ」である。泰グループは呉音、漢音とも「ア段イ」である。

⑲夬グループは呉音が「エ段」、漢音が「ア段イ」であるが、旧仮名遣いでは呉音が「クエ」、漢音が「ウ段ワイ」である。廢グループは呉音が「オ段」、漢音が「ア段イ」である。

⑳蕭、宵グループは呉音、漢音とも「拗音ヨ長音」であるが、旧仮名遣いでは呉音、漢音とも「エ段長音」である。肴グループは呉音が「拗音ヨ長音」、漢音は「オ段長音」であるが、旧仮名遣いでは呉音が「エ段長音」、漢音が「ア段長音」である。豪グループは呉音、漢音とも「オ段長音」であるが、旧仮名遣いでは呉音、漢音とも「ア段長音」である。

②①いずれのグループも呉音、漢音とも「ア段」である。旧仮名遣いでは戈グループが呉音、漢音とも「ウ段ㄩ」である。

②②呉音が「エ段」、「拗音ヤ」、「ア段」、漢音が「ア段」、「拗音ヤ」である。漢音の「ア段」は旧仮名遣いでは「ウ段ㄩ」である。

②③尤グループは呉音が「ウ段」、漢音が「拗音ユ長音」であるが、旧仮名遣いでは「イ段ウ」である。侯グループは呉音が「ウ段」、漢音が「オ段長音」である。幽グループは呉音、漢音とも「拗音ユ長音」であるが、旧仮名遣いではどちらも「イ段ウ」である。

②④中古漢語-k韻尾入声である。-k韻尾入声は日本語において単独では「ーク、ーキ」であり、「フッコウ（復興）」のように熟語においてカ行音の前にある場合では促音となる。

屋、沃グループは呉音、漢音とも「オ段ク」である。燭グループは呉音は「オ段ク」、漢音は「拗音ヨク」である。

②⑤中古漢語-k韻尾入声である。呉音、漢音とも「ア段ク」である。

②⑥中古漢語-t韻尾入声である。-t韻尾入声は日本語において単独では漢音「ーツ」、呉音「ーチ」となる。「シツパイ（失敗）」、「シツソ（質素）」のように熟語において破裂音とサ行音の前にある場合では促音となる。

質グループは呉音が「イ段チ」、漢音が「イ段ツ」である。術グループは呉音、漢音とも「拗音ユツ」である。櫛グループは呉音が「イ段チ」、漢音が「イ段ツ」である。物グループは呉音が「ウ段オ段チ」、漢音が「ウ段ツ」である。

②⑦中古漢語-t韻尾入声である。呉音は迄、月、没グループいずれも「オ段チ」である。漢音は迄グループが「イ段ツ」である。月グループが「エ段ツ」である。没グループが「オ段ツ」である。

②⑧中古漢語-t韻尾入声である。曷グループは呉音が「ア段チ」、漢音が「ア段ツ」である。末グループは呉音が「ア段チツ」、漢音が「ア段

ツ」である。轄グループは呉音が「エ段チ」、漢音が「ア段ツ」である。黠グループは呉音が「エ段チ」、漢音が「ア段ツ」である。

⑳中古漢語-t韻尾入声である。呉音は屑、薛グループとも「エ段チ」、漢音は屑、薛グループとも「エ段ツ」である。

㉑中古漢語-k韻尾入声である。葉グループは呉音、漢音とも「拗音ヤク」である。鐸グループは呉音、漢音とも「ア段ク」である。

㉒中古漢語-k韻尾入声である。呉音は陌、麦グループとも「拗音ヤク」である。漢音は陌、麦グループとも「ア段ク」である。

㉓中古漢語-k韻尾入声である。呉音は昔、錫グループとも「拗音ヤク」である。漢音は昔、錫グループとも「エ段キ」である。

㉔中古漢語-k韻尾入声である。職グループは呉音が「イ段キ」、漢音が「拗音ヨク」である。徳グループは呉音、漢音とも「オ段ク」である。

㉕中古漢語-p韻尾入声である。-p韻尾入声は日本語において長音「ーウ」となるが、入声は促音のように発音されるのでこれが長音となるのは不自然である。この入声韻は旧仮名遣いでは「ーフ」と表記される。前述の如く以前の日本語にはハ行音は無く、ファ行音もしくはパ行音であった。旧仮名遣いの「ーフ」は〔Φ〕ではなく〔f〕であったと考えられる。〔f〕は唇音であるから〔p〕とはそれほど離れていない。「歌ふ」は「ウトー」、「笑ふ」は「わろー」、「従ふ」は「シタゴー」のように旧仮名遣いでは和語の長音を「ーふ」で表す場合もあった。これが後に漢語（日本語の語彙における漢語）の長音「ーウ」と一緒になり「ーふ」も「ーウ」と表記し-p韻尾入声の日本語漢字音は長音となった。「ガッペイ（合併）」や「ハット（法度）」のように促音で読む場合もある。

呉音、漢音とも「拗音ユ長音」であるが、旧仮名遣いではともに「イ段フ」である。

㉖中古漢語-p韻尾入声である。合グループは呉音、漢音とも「オ段

長音」であるが、旧仮名遣いでは呉音が「オ段フ」、漢音が「ア段フ」である。盍グループは呉音、漢音とも「オ段長音」であるが、旧仮名遣いでは呉音が「オ段フ」、漢音が「ア段フ」である。葉グループは呉音、漢音とも「拗音ヨ長音」であるが、旧仮名遣いではともに「エ段フ」である。帖グループは呉音、漢音とも「拗音ヨ長音」であるが、旧仮名遣いではともに「エ段フ」である。

㊿中古漢語-p韻尾入声である。洽グループは呉音が「拗音ヨ長音」、漢音が「オ段長音」であるが、旧仮名遣いでは呉音が「エ段フ」、漢音が「ア段フ」である。狎グループは呉音が「拗音ヨ長音」であるが、旧仮名遣いでは「エ段フ」である。漢音が「オ段長音」であるが、旧仮名遣いでは「ア段フ」である。業グループは呉音が「オ段長音」であるが、旧仮名遣いでは「オ段フ」である。漢音は「拗音ヨ長音」であるが、旧仮名遣いでは「エ段フ」である。乏グループは呉音、漢音とも「オ段長音」であるが、旧仮名遣いでは呉音が「オ段フ」、漢音が「ア段フ」である。

おわりに

以上、日本漢字音の概要に触れてみた。

日本では漢字の読み方に訓読と音読があるが、常用漢字2136文字すべてにこれがあるわけではない。常用漢字表に従えば、音読のみ採用している漢字は815字あり全体の約38%を占める。「意（意に介さない、注意）」、「気」（気になる、気温）」、「肺（肺を患う、心肺）」など、通常では単独でも熟語でも音読しかならない漢字は多い。

音読を採用せず訓読のみ採用している漢字は扱（呉音シヨウ漢音ソウ）、宛（呉音オン漢音エン）、嵐（呉音漢音ラン）、茨（呉音ジ漢音シ）、芋（呉音漢音ウ）、唄（呉音バイ漢音ハイ）、畝（呉音ホ漢音ボウ）、浦（呉音

フ漢音ホ)、岡(呉音漢音コウ)、虞(呉音漢音グ)、俺(呉音漢音エン)、
 卸(呉音漢音シャ)、蚊(呉音モン漢音ブン)、貝(呉音ハイ漢音バイ)、
 垣(呉音オン漢音エン)、柿(呉音ジ漢音シ)、掛(呉音ケ漢音カイ)、潟
 (呉音シャク漢音セキ)、且(呉音漢音シャ)、株(呉音チュウ漢音シュ)、
 釜(呉音ブ漢音フ)、鎌(呉音漢音レン)、刈(呉音ゲ漢音ガイ)、串(呉
 音ケン漢音カン)、熊(呉音ウ漢音ユウ)、繰(呉音漢音ソウ)、桁(呉音
 ギョウ漢音コウ)、乞(呉音コツ漢音キツ)、駒(呉音漢音ク)、込(国字)、
 頃(呉音キョウ漢音ケイ)、埼(呉音ギ漢音キ)、崎(呉音漢音キ)、咲
 (呉音漢音ショウ)、皿(呉音ミョウ漢音ベイ)、鹿(呉音漢音ロク)、芝
 (呉音漢音シ)、尻(呉音漢音コウ)、据(呉音コ漢音キョ)、杉(呉音セン
 漢音サン)、裾(呉音コ漢音キョ)、瀬(呉音漢音ライ)、滝(呉音漢音ロウ)、
 但(呉音ダン漢音タン)、棚(呉音ビョウ漢音ホウ)、誰(呉音ズイ
 漢音スイ)、塚(呉音チュウ漢音チョウ)、漬(呉音ジ漢音シ)、坪(呉音
 ビョウ漢音ヘイ)、爪(呉音ショウ漢音ソウ)、鶴(呉音ガク漢音カク)、
 峠(国字)、栃(国字)、届(呉音ケ漢音カイ)、井(呉音ショウ漢音セイ)、
 梨(呉音漢音リ)、謎(呉音マイ漢音ベイ)、鍋(呉音漢音カ)、匂(国字)、
 虹(呉音漢音コウ)、箱(呉音ソウ漢音ショウ)、箸(呉音ジョ漢音チョ)、
 畑(国字)、肌(呉音漢音キ)、膝(呉音シチ漢音シツ)、肘(呉音漢音チ
 ュウ)、姫(呉音漢音キ)、頬(呉音漢音キョウ)、堀(呉音ゴチ漢音クツ)、
 枕(呉音漢音シン慣用音チン)、又(呉音ウ漢音ユウ)、岬(呉音キョウ漢
 音コウ)、娘(呉音ニョウ漢音ジョウ)、弥(呉音ミ漢音ビ)、闇(呉音オン
 漢音アン)、杵(国字)、脇(呉音コウ漢音キョウ)の77字である。込、
 峠、栃、匂、畑、杵は国字であるので元来音読が無い。

国字以外は無論みな音読がある。音読を採用しない理由はなにか。通常
 は熟語として使用することが稀であって音読を特に必要としない所以であ
 ろう。この77字は単独で使用する場合が多いと思われるが「枕頭(チント
 ウ)」、「誰何(スイカ)」などはさほど稀な例とも思われぬ。「婿」は常

用漢字表に「女婿（ジョセイ、婿呉音サイ漢音セイ）」という例が挙げられている。さほど一般的な熟語とも思われぬ。「虞（おそれ）」は訓読も一般的とも思われぬ。

「姫」の正字は形声文字で「女」は意符「臣」が音符であるが、「臣」では「キ」の音は導き出されぬ。「臣」は本来「頤（呉音漢音イ、あごの意）」の偏と同じ。現代中国語では「姫」。「姫（呉音漢音シン、つつしむの意）」と「姫」は別の字である。音符を無視しているので音読は採用していない。「嬢」（音読のみ採用）と「娘」は本来別の字であるが、意味が大変近く《正字通》（字書、明代張自烈著）には「娘俗嬢字」（娘は嬢の俗字）とあり、現代中国語ではどちらも「娘」である。この2字を音読は「嬢」、訓読は「娘」と使い分けるのはあまり論理的ではない。

漢字は中国から伝播し我が国に根付いた。文字を取り入れたのではなく、文明がはるかに発達した地域の言葉を文字とともに取り入れたのである。当初は音読のみであった。音読はその漢字を理解する上で非常に重要である。常用漢字において音読の採用、不採用に明確な基準が見られぬ。基準が曖昧であれば、取り敢えずは国字を除きすべての漢字に、例に挙げるものが無ければ、備考欄にその漢字の音読を記載すべきである。

注

- 1) ピンイン表記では子音j、q、xの後の〔ü〕はuで表記される。
- 2) 平成22年11月30日に内閣告示第2号「常用漢字表」として内閣告示されたもの。
- 3) 《世界の文字の図典》（世界の文字研究会編 1995年8月 吉川弘文館）漢字の音と訓 参照
- 4) 推定音価は《中国語研究》（坂井健一著 1995年12月 汲古書院）I 經典積文研究《切韻》の字音研究 参照
- 5) 推定音価は《漢語語音史概要》（方孝岳著 1979年11月 商務印書館）第三章中古音《広韻》各部反切下字表 参照
- 6) 櫛韻に属する常用漢字は無い。

- 7) 迄韻に属する常用漢字は無い。
- 8) 蓋をガイと読むのはこの字が泰韻にも属するため
- 9) 《日本語音声概説》(川上夔著 2004年3月 おうふう) 単音論 日本語の子音 参照
- 10) 《日本語音声考》(大出あや子著 1985年3月 教育出版センター) 二 八行子音一般の歴史 参照
- 11) 日本語の母音は詳細に見れば5種類に止まらない。《日本語音声概説》(川上夔著 2004年3月 おうふう) 単音論 日本語の母音 参照 しかし、子音より更に日本人には聞き分け難いので5種類とした。